

2020年1月14日

香川大学にご献体される皆様及びそのご家族様

(医学研究に関する情報)

当大学では、以下の医学研究を実施しております。この研究は、白菊会に入会されご献体頂いた解剖体の情報を用いて行います。このような研究は、厚生労働省・文部科学省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」(平成26年文部科学省・厚生労働省告示第3号)の規定により、研究内容の情報を公開し、研究対象となる方等が拒否できる機会を保障することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせ、拒否される場合などがありましたら、以下の連絡先・相談窓口へご照会ください。本研究への利用を拒否された場合に不利益を受けることはありませんし、ご献体された方が識別される情報の利用を停止します。また、この研究については、香川大学医学部倫理委員会の審議にもとづく医学部長の許可を得ています。

[研究課題名] 系統解剖実習における解剖体 Thiel 固定の有用性の検討

[研究機関の長] 香川大学医学部長

[研究責任者名・所属] 香川大学 医学部 形態・機能医学講座 神経機能形態学・教授・三木 崇範

[研究の目的]

香川大学医学部では医学科2年次学生の解剖学Ⅰとして開講される実習として系統解剖学実習が開講されています。系統解剖学実習では、ご遺体をホルマリンで固定し実習用に供しています。ホルマリン固定は保存性・防腐性に優れるという利点がある一方で、組織の硬化により観察・同定などが困難という欠点があります。近年、新規の解剖体固定法 Thiel 固定法が開発され、ホルマリンによる固定の欠点を補う可能性がある点で注目されています。

香川大学医学部では、学生実習時にホルマリン固定解剖体に加え、Thiel 固定した解剖体を学生に供し教育に役立てています。これまで系統解剖実習を修了した学生にアンケートを実施し Thiel 固定法の方が学習し易いという結果を得ています。しかしながら、Thiel 固定法が解剖体のどの部位でどのように学習し易く有用なのかは分かりません。そこで、既に行ったアンケートを基にそれぞれの固定法で固定した解剖体を比較して観察のし易さ、同定のし易さを臓器、神経、血管、筋肉ごとに比較検討し客観的指標として画像を撮影して Thiel 固定法の有用性を検討することを目的としています。この研究は医学部における解剖学教育のレベル向上と医学の発展に繋がる意義深いものです。

[研究の方法]

○対象となるご献体

白菊会に入会し2015年4月1日から2022年2月28日の間にご献体された方

○利用する情報

情報：性別、死因、各部位(上・下肢、胸部・腹部・骨盤内臓等)の写真
(写真に関しては個人の特定が一切不可能なように配慮します)

[外部への情報の提供]

無し

[外部からの検体・診療情報の提供]

無し

[研究組織]

香川大学 医学部 形態・機能医学講座 神経機能形態学・教授・三木 崇範

[研究代表者]

香川大学 医学部 形態・機能医学講座 神経機能形態学・教授・三木 崇範

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他のご献体者の個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に使用のご献体の個人情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際もご献体者を特定できる個人情報は一切利用しません。

[連絡先・相談窓口]

香川県木田郡三木町池戸 1750-1

香川大学 医学部 形態・機能医学講座 神経機能形態学・三木 崇範

電話 087-891-2087 FAX 087-891-2088